

1 ディルリク発給簿とは

オスマン朝におけるティマール制については、その長い研究の歴史にも関わらず、制度の全容が未だに明らかになっていない¹。1980年代にイスタンブルの首相府オスマン文書館においてディルリク発給簿が新たに公開され、ティマール制の構造を解明し得る史料として期待されたが、閲覧制限や複写禁止などの諸事情も重なって、これまでほとんど利用されてこなかった²。そこで本報告では、我が国でもあまり知られていないディルリク発給簿について、史料の転写とともにその史料的特質について紹介していきたい。

ディルリク発給簿は、首相府オスマン文書館のカタログでは *Timar Zeamet (Ruznamçe) Defterleri* (ティマールとゼアーメトのルーズナムチェ台帳) と記載されているが、史料中は *rūznāmçe* もしくは *rūznāmçe-i hümayūn* と記される。現在、オスマン朝下で作成されたディルリク発給簿の大部分はイスタンブールとアンカラの二つの文書館に所蔵されている³。イスタンブールの首相府オスマン文書館には 15 世紀末から 19 世紀中頃にかけて記録された二千冊以上が、そしてアンカラの地券地籍簿総局には 17 世紀末から 20 世紀初頭にかけて記録された千数百冊が所蔵されている。イスタンブールの首相府オスマン文書館が最大の所蔵先であるが、ここでは DFE.RZ.d (*Timar Zeamet (Ruznamçe) Defterleri*) だけでなく、MAD.d (*Maliyeden Müdevver Defterler*)、KK.d (*Kamil Kepeci Defterleri*)、TT.d (*Tapu Tahrir Defterleri*) といった複数のフォンドに分散されている。伝世するディルリク発給簿のうち最も古いものはヒジュラ暦 892 年から 894 年 (西暦では 1487 年から 1489 年) にわたり記録された MAD.d 17893 である。

ディルリク発給簿とは勅許状発行のために必要なテズキレ (有資格者であることを示す証書) を写したものである。上奏から勅許状発行までの過程が詳細に把握できる唯一の史料であり、租税台帳には記載のないディルリク保有に至る経緯と保有の条件、さらにその後の保有状況の変動について知ることができる。このように租税台帳を補完できる有用な史料であるにも関わらず、現在までディルリク発給簿を体系的に利用した研究は意外に少ない。史料紹介をした

[Beldiceanu-Steinherr, Berindei and Veinstein 1976][Beldiceanu-Steinherr, Berindei and Veinstein 1978][Beldiceanu 1976][Kahraman 2009]以外には、アイドゥン県を対象とした[Howard 1987]があるの

¹ ティマール制の研究史については、[三沢 2006]。

² 現在は閲覧室にあるコンピュータでほとんどのディルリク発給簿を見ることが出来、また複写も可能である。

³ 以下、ディルリク発給簿の所蔵先、冊数、分類については[Howard 1987]を参照した。

みである⁴。

2 テズキレの書式

ディルリク発給簿の寸法は縦約三十センチ、横約十センチである。原則として一つの州の一年分の記録が一冊にまとめられるが、複数の州の記録がまとめて一冊になることも多い。一冊はさらに県単位でいくつかの纏まり(cüz')に分けられる。一つの纏まりに複数の県が記録されることもある(図1)。

テズキレの内容に入る前に、テズキレ発行のパターンについてまとめておこう。テズキレは、大きく分けて1.ディルリク授与、2.勅許状の更新 *tecdid-i berät*、3.ディルリクの確定や再確認の三パターンで発行される。1.ディルリク授与は、新規のディルリク授与と再授与の場合がある。いずれの場合もディルリクの「空き *maḥlül*」が出ないとディルリク授与には至らない。ディルリクが「空く」のは、ディルリク保有者が死亡または解雇 *ma'zül*、もしくは自身のディルリクを他者に移譲 *ferāgat* する時である⁵。2.勅許状の更新とは、スルタンの即位 *cülüs-i hümayün*、ディルリク調査 *taḥrîr*、紛失による勅許状の再発行 *zāyi'*、ディルリクの加増 *terakḳi*、不足分のディルリク額の充当 *tekmil*⁶などに際して勅許状更新のためにテズキレを発行してもらうケースである。3.ディルリクの確定や再確認とは、ディルリクをめぐる争いが発生した際の中央の裁定や遠征前のディルリク保有確認のためにテズキレを発行してもらうケースである。

では、ディルリク発給簿からテズキレの記録の書式を見ていこう。

図2 : DFE.RZ.d 55, p. 1030

1. 台帳への記録日 (p. 1029) [yev]mü'l-aḥad fi 13 recebü'l-mürecceb sene 989
2. テズキレ発行後の変更内容 *Diyārbakır'da Āmid sancağında tîmār alub berät etdi sene 996*
3. 州総督への勅令 *emr-i ūŕif verilmiūdür*
4. ディルリク地のある郷と県 *nāḥiye-i Bitlis der livā-i mezbūr*
5. ディルリクの種類と保有者 *tîmār-ı Hızır veled-i Meḥmed*
6. ディルリクの前保有者と喪失理由 *'an-taḥvîl-i 'Abdî ki müteveffā ūüd*
7. ディルリクの詳細 (村名/メズラア名/税名、税額、税額からの割当分、決定額)

⁴ただし、[Howard 1987]も対象期間の全てのディルリク発給簿を利用していない。

⁵一定期間ディルリクを保有した後に、解雇もしくは移譲という形でディルリクを放棄し、そのディルリクが他者に授与されるというローテーション・システムの存在が[Howard 1987]で指摘されたが、アナトリア南東部でも同じような事例が見られる。

⁶不足分のディルリク額の充当とは、ディルリクが決定額より少額で授与された場合、後に「空き」が出たディルリクから不足分を補うことである。この場合、テズキレには A *ber-vech-i tekml B* (当座の額 A、充当後の額 B) と記される。

maḥşül-i kilise-i Goms ve kilise-i Aveh ve Çukûrkâr? der-nezd-i Bitlîs ber-vech-i maḥţû' fî sene 6500 hisşe
1000

ḳarye-i Mişkân der-nâhiye-i Çukûr tâbi'-i m ḥâşıl 4814 hisşe 1693

ḳarye-i Riclîk tâbi'-i mezbûr ḥâşıl 4500 hisşe 3000

ḳarye-i 'Ulyân der-nâhiye-i Hıuyut tâbi'-i m ḥâşıl 307

ḳarye-i Şîn der-nâhiye-i Suvî der livâ-i m ḥâşıl 3252 hisşe 200

yekûn 6200 ber-vech-i tekmîl 9000

8. テズキレ発行までの経緯

①Bidlîs sancağında ve nâhiyesinde berât-ı hümâyûn ile 6200 aḳçalıḳ hisşe tîmâra mutaşarrıf olan 'Abdî fevt olub tîmârı mahlûl olmağın ②Vân güñüllülerinden olub 17. bölükde yevmî 10 aḳça 'ulûfeye mutaşarrıf olan Mehmed oğlu Hızır'a ③düşenden 9000 aḳçalıḳ bir tîmâr tevcîh edesin deyü emr verilüb sene 980 şevvâlî'l-mükerremi'nüñ evâ'ili târîhiyle irâd etmegen ④müteveffâ 'Abdî taḥvîlinden mahlûl olan 6200 aḳça tîmâr ber-vech-i tekmîl 9000 aḳçalıḳ üzre tevcîh olunub berât-ı 'âlî-şân için tezkire verildi

9. テズキレ発行日 fî gurre-i rebî'ülevvel sene 1004

10. テズキレ発行者 tezkire-i Hüsrev Paşa

1.台帳への記録日は、各テズキレのディルリク発給簿への記録日である。記録日の後にまとめてテズキレが記されていくため、各テズキレの前に必ず記録日が記されている訳ではない。2.テズキレ発行後の変更内容は、即位による勅許状更新、ディルリク地や額の変更、ディルリクの移譲とその対象者、ディルリクの没収とその理由などテズキレ発行後のディルリクに関する変更であり、日付とともに書き入れられる。3.州総督への勅令は、ディルリク授与決定後、ディルリク地の州総督に送付される勅令である。複数回にわたり勅令が出された場合は「二回勅令が与えられた iki kıt'a hükm-i şerif verilmişdür」というように数も記される。8.テズキレ発行までの経緯では、①前保有者のディルリク地と額、ディルリクの喪失理由、②新保有者の経歴と授与理由、③ディルリク授与に関して州総督に送られた勅令の内容と日付が順に述べられた後、④ディルリク額が決定しテズキレが発行されたことが記される。10.テズキレ発行者には、ディルリク地のある州総督の名が記されているか、もしくは空欄である。空欄の場合は中央からテズキレが発行されている。

3 テズキレの内容

テズキレはその内容ごとにほぼ同じ書式を取る。テズキレの発行理由のうち最も多いのが新規のディルリク授与とスルタンの即位やディルリク調査に関わるものであるため、以下にこれら三例の転写を示す。

3-1 新規のディルリク授与

新規のディルリク授与については、テズキレに①保有者の経歴が必ず記される。②と③はディルリク地の州総督に勅令が与えられ、中央からテズキレが発行されたことが記されているが、固有名詞と数詞以外はほぼ同じ文言である。

図 3 : DFE.RZ.d 58, p. 147

[yev]mü'l-şelāşe fi 21 cümādelülā sene 990

nāhiye-i Tātvan der-livā-i Bidlis

tīmār-ı Yūsuf

'an-tahvīl-i 'Alī el-müteveffā

ķarye-i Zūrvār tābi'-i Tātvan ḥāşıl 3564

ķarye-i Kemāhī ḥāşıl 6828 ḥişşe-i dīvānī 'an-nışf ve rūsūm-ı 'örfiye 3414

yekūn 6976 ḥişşe 6965

Құл оғлі mezkūr Yūsuf sūdde-i sa'ādete gelüb ①Vān'ūñ cedīd ķullarından 8. bölükde 10 aķça 'ulūfeye mutaşarrıf iken yarardur deyü Şeref Ḥān 'arz etdükte şülüşān üzre 6666 aķça tīmāra Vān'da emr-i şerīf verilüb müyesser olmaduğın ve Bitlis sancağında Tātvan nāhiyesinde Zūrvār ve Kemāhī nām ķarye ve ğayriden 6976 aķça tīmār müteveffā 'Alī tahvīlinden maḥlūldür deyü ricā etmegın evvel ḥükm alınub mezkūr fevt olub tīmārı vefāt tārīhine dek üzerinde olub ḥālā maḥlūl ise bedelin ②tevcīh edesın deyü Vān beglerbegisine ḥükm-i şerīf verildükden soñra tezkiresi bāb-ı sa'ādetden iḥrāc olunmaķ fermān olunmağın ber-müciḃ-i fermān-ı 'ālī zıkr olunan tīmāruñ 6965 aķçaluğı müteveffā 'Alī tahvīlinden ibtidā emr olunan şülüşānı bedelinden ķābil-i ifrāz olmayan 299 aķça ziyādesiyle ③Құл оғлі merķūm Yūsuf'a tevcīh olunub berāt-ı 'ālī-şān için tezkire verildi fi 18 cümādelülā sene 990

3-2 即位に関わる勅許状の更新

①「皇帝陛下の即位があったので、すべて勅許状が更新されるよう命じられた」という文言からはじまる。②はディルリク授与日ではなく、現在所有する勅許状の発行日であることに注意する必要がある（ディルリク授与日の後、勅許状が幾度か更新されている可能性があるため）。

図 4 : DFE.RZ.d 169, p. 608

[yev]mü'l-işneyn fi 11 şevvālū'l-mükerrem sene 1003

mühürlenmişdür

nāḥiye-i Boġnād der-livā-i Bitlīs
tīmār-ı ‘Osmān birāder-i Ƙul

Ƙarye-i Arbiyān tābi‘-i Boġnād ḥāşıl 10000

①cülūs-ı hümayūn vāqi‘ olmaġla ‘umūmen tecdīd-i berāt fermān olınmaġın Bitlīs sancaġında zıkr olan 10000 aƣça tīmāra ②sene 1002 şevvāli’nüñ 28. güninden merḥūm ḥüdāvendigār berātıyla mutaşarrıf olan Ƙul Ƙarındaşı mezkūr ‘Osmān tārīḥ-i mezbūrdan berü tīmārum üzerimdedür deyü berātı tecdīd olınmasın ricā etmegin der-i devletden tecdīd-i berāt-ı ‘ālī-şān için tezkire verildi taḥrīren 11 şevvālū’l-mükerrem sene 1003

3-3 ディルリク調査に関わる勅許状の更新

①ではディルリク調査で判明した新たな数値が記される。②では調査の結果作成された新たな帳簿をもとに州の書記が書いたテズキレに従い、中央から勅許状更新のためのテズキレが授与されたことが記される。

図 5 : DFE.RZ.d 156, p. 343

nāḥiye-i Ƙoltık der-livā-i Bitlīs
tīmār-ı Ḥüseyin b. Ḥasan

Ƙarye-i Ḥomāç ḥāşıl 4500

Ƙarye-i İnip ḥāşıl 3000

yekūn 7500 ḥişşe 1500 ber-vech-i tekmil 3000

mezkūruñ berātı ve yāftesi mücibince 3000 aƣçalık tīmārınuñ taşarrufunda olan 1500 aƣçalığı ① müceddeden taḥrīr olınduġda taşḥīḥ ve bedelinden 1500 aƣça noġşāmyla ber-vech-i tekmil 3000 aƣçalık üzre merḥūm Ḥüseyin’e ②defter-i cedīdden kātibü’l-vilāye sene [9]98 şa‘bānı’nuñ ġurresinden tevcīh edüb verdüġi tezkire muḳtezāsınca der-i devletden tecdīd-i berāt-ı ‘ālī-şān için tezkire verildi fī 4 muḥarremü’l-ḥarām sene 1001

3-4 テズキレの変化

17世紀初頭にかけて、テズキレの書式とともにその内容についても変化があらわれる。書式に関する変更の一つはディルリク加増の際に加増の後ではなく加増決定時にテズキレが発行されるよ

うになったことである。内容に関する変化の一つは新規のディルリク授与の際に保有者の経歴が記されないテズキレの増加である⁷。この二つのケースについても以下に転写を示す。

1. 加増後ではなく、加増決定時にテズキレが発行されるケース

図 6 : DFE.RZ.d 326, p. 440

ferāğat etmegın ‘Alī’ye verilmişdür fī 16 M sene 1020
āḥar tīmār alub tecdīd-i berāt eylemişdür fī 20 M sene 1020
ḥükm-i şerīf verilmişdür
nāḥiye-i Kefendir der-livā-i Bitlīs
tīmār-ı Zeyneddīn

ḳarye-i Merḳūk-ı ‘Ulyā ḥāşıl 8156 ḥişşe 1599
ḳarye-i Ḳarataş der-nezd-i ḳarye-i Ḳarakūm ḥāşıl 500
mezra‘a-i Abdāl ḥāşıl 1000
yekūn 3099 ber-vech-i tekmīl 8000

Bitlīs sancağında Kefendir nāḥiyesinde 3099 aḳça tīmāra ber-vech-i tekmīl 6000 aḳça mutaşarrıf olan mezkūr Zeyneddīn gelüb bu def‘a vāḳi‘ olan şarḳ seferde ḥidmetde bulunduğın bildirüb ‘ināyet ricā etmegın mezīd-i ‘ināyetden 2000 aḳça teraḳḳiye sene 1019 zīlḳa‘desi’nün evā’ilinde emr-i şerīf verilüb berātına ilḥāḳ olunmak fermān olunmağın ber-mūcib-i emr-i ‘ālī zıkr olınan 3099 aḳça tīmāra istiḥḳāḳı ve bir ḳıṭ‘a emr olınan teraḳḳiye bedelinden 4901 aḳça noḳşāniyla ber-vech-i tekmīl 8000 aḳçalıḳ üzre mezkūr Zeyneddīn’e tevcīḥ olunub berāt-ı ‘ālī-şān için tezkire verildi taḥrīren fī 16 zīlḥicceü’l-şerīfe min şühūr sene 1019

2. 新規のディルリク授与の際、保有者の経歴が記されないケース

図 7 : DFE.RZ.d 326, p. 461

mühürlenmişdür
ḳaydı mīr-i mīrāndadur deyü ‘arz olınduḳda buyurılmışdur
bir ḳıṭ‘a ḥükm[-i şerīf verilmişdür]
nāḥiye-i Çuḳūr der-livā-i Bitlīs
tīmār-ı Meḥmed ‘an-taḥvīl-i ‘Alā’eddīn el-müteveffā

⁷この点について、被支配層であるレアーヤーがディルリク保有者となった場合、経歴が記されない可能性が指摘されている[Howard 1987: 171]。

ḳarye-i Mūşūrī tābi'-i Çuḳūr ḥāşıl 5500 ḥişşe 1500 ber-vech-i tekmīl 3000

zıkr olınan 1500 aḳça tīmāra mutaşarrıf olan 'Alā'eddīn fevt olub tīmārı maḥlūl olmağın işbū mezkūr Meḥmed bendeleri yarar olub Tabrız muḥārebesinde ḥıdmetde bulunduğın Bitlīs ḥākimi Ziyā'eddīn 'arz etmegın ibtidādan 3000 aḳça tīmāra sene 1014 recebi'nūñ evā'ilinde emr-i şerīf verilmegin tīmār-ı mezbūr müteveffā-yı mezkūr taḥvīlinden 1500 aḳça noḳşānyla ber-vech-i tekmīl 3000 aḳçalıḳ üzre mezkūr Meḥmed'e tevcīh olunub berāt-ı 'ālī-şān için tezkire verildi taḥrīren fī ḡurre-i muḥarremü'l-ḥarām sene 1018

bā-tezkire-i Hüseyn Paşa

4 デイルリク発給簿と他の史料の連関性

デイルリク発給簿の利用に際していくつか注意すべき点がある。その一つは村やメズラア名などの地名や税額に記載ミスが多いことであり、これについては租税台帳の明細帳と照合する必要がある。また、現存するデイルリク発給簿から抜け落ちているデイルリク所有者も当然いるが、調査時の全てのデイルリク所有者が記載されている租税台帳の簡易帳を見ることによって、簡易帳に記載のあるデイルリク所有者のうちどの程度がデイルリク発給簿に記録されているか確かめることができる。逆に、デイルリク発給簿を利用することにより、他の史料の記載内容を正確に把握できる場合も多い。一例を示そう。図8は御前会議局で記録された勅令の写しである。記録の上に斜めにāmed fī 6 ZA sene 987、そしてMūşと書かれているが、この日付と地名が何を意味するかこのままでは不明である。そこで、図8にあるデルヴィシュなる人物の記録をデイルリク発給簿(図9)に求めると、次のことが明らかになる。日付順に説明すると、①(図8)ヒジュラ暦986年12月17日、御前会議局でデルヴィシュが保有するデイルリクの詳細が決定、テズキレを作成するようヴァン州総督に送られた勅令の写しが記録された。②(図9)ヴァン州総督への勅令はヒジュラ暦986年12月中旬に送られた。③(図9)ヒジュラ暦987年1月12日にヴァン州総督がテズキレを作成した。テズキレはデイルリク保有決定者に渡され、デイルリク保有決定者がテズキレを持って上奏すると勅許状発行の手続きに入るため、このケースでもデルヴィシュがテズキレを持って上奏したと考えられる。④(図8)ヒジュラ暦987年11月6日にデルヴィシュのテズキレが御前会議局に到着し記録された。その後、文書保存局(defterhāne)での照合等を経て、⑤(図9)ヒジュラ暦987年12月10日にデイルリク発給簿にテズキレの写しが記録され、勅許状発行前の手続きが終了した。このように、図8に図9を照合することによって、āmed fī 6 ZA sene 987はデルヴィシュのテズキレが御前会議局に到着し記録された日付であり、Mūşはデルヴィシュのデイルリク地であることが明らかになるのである。

図 8 : KK.d 90, p. 61

(p. 60)①[yev]mü's-sebt fi 17 zılhicce sene 986

④āmed fi 6 ZA sene 987

Müş

Vân beglerbegisine hüküm ki südde-i sa'adetüme itâ'at etmekle Bitlîs sancağı 'ināyet olınan Şeref Hân'ın kethüdâsı Dârende Dervîş zîde kâdrühü müşârünileyhle yukarı cānibden bile gelüb her vechle yarar olduğu i'lâm olınmağın mezîd-i 'ināyetümden ibtidâdan 37000 aqça ze'âmet verilmesin emr edüb buyurdum ki Si'ird sancağının icmällü hâşları ifrâzından 37000 aqçalık bir ze'âmet tevcîh edüb tezkiresin veresin.

図 9 : YB.04.d. 203, p. 315

⑤[yev]mü's-selâse fi 10 şehri zılhicce sene 987

ibtidâdan hüküm-i şerîf verilmişdür

nâhiye-i Oĥkân der-livâ-i Müş

ze'âmet be-nâm-ı Dervîş 'an-tahvîl-i Hâlîl Beg ki mîr-i livâ-i Si'ird

[ディルリクの詳細省略]

müşârünileyh Dervîş bendeleri âsitâne-i sa'adete itâ'at edüb hâlâ Bitlîs sancağı begi olan Şeref Hân'ın kethüdâsı olub yukarı cānibden bile gelüb her vechle yarar olmağın vilāyet-i Vān'da ibtidâ 37000 aqçalık ze'âmet 'ināyet olunub düşenden müyesser degildür deyü istid'â eylemegin sâbıkâ Si'ird sancağı begi olan Hâlîl Beg'ün noqşânı için Si'ird sancağı dâhil olan Müş sancağında Oĥkân nâhiyesinde 37000 aqça yazar hâşları ber-vech-i ze'âmet tevcîh edüb tezkiresin veresin ki berât-ı şerîfüm verile [deyü] sene ②986 zılhiccesi'nüñ evâşıtı târîhiyle müverrah emr-i hümâyün irād eyleyüb Müş sancağında Oĥkân nâhiyesinde Ġâzikend nâm kırye ve mezâri'den kâbil-i ifrâz olmayan 976 aqça ziyâdesiyle 37976 aqçalık ze'âmet tevcîh olunub berât-ı 'âlî-şân için tezkire verildi ③fi 12 şehri muĥarremü'l-ĥarâm sene 987. tezkire-i Hüsrev Paşa

上に示したのはほんの一例であるが、ディルリクに関する実務は中央では御前会議局や文書保存局など複数の部局が関わっていた。それゆえ、各部局の連関性も考慮した広く丁寧な史料調査が必要であることは言うまでもない。そのうえで、個別地域のディルリク研究の積み重ねと全域を対象に共通性と特殊性を検証することがティマール制の解明につながっていくだろう。

史料

首相府オスマン文書館 (Başbakanlık Osmanlı Arşivi) 所蔵史料

DFE.RZ.d: Timar Zeamet (Ruznamçe) Defterleri 55, 58, 86, 156, 169, 290, 326

KK.d: Kamil Kepeci Defterleri 90

YB.04.d: Bulgaristan'daki Osmanlı Defterleri 203

Beldiceanu-Steinherr, I., M. Berindei, and G. Veinstein, "Attribution de *Timār* dans la province de trébizonde (fin du XV^e siècle)," *Turcica* 8:1 (1976), pp. 279-290.

Beldiceanu-Steinherr, I., M. Berindei, and G. Veinstein, "Attribution de *Timār* dans la province de trébizonde (fin du XV^e siècle) II," *Turcica* 9:2-10 (1978), pp. 107-154.

Beldiceanu, N., "Le timar de Muşlıh ed-dīn, précepteur de Selīm Şāh," *Turcica* 8:2 (1976), pp. 91-109.

Kahraman, S. A., *Kayseri Sancağı Timarları (Hicrî 997-998/Milâdî 1589-1590)*, 2 vols., Kayseri, 2009.

参考文献

Afyoncu, E., *Osmanlı Devlet Teşkilâtında Defterhâne-i Âmire (XVI-XVIII. Yüzyıllar)*, Doktora Tezi, (Marmara Üniversitesi), İstanbul, 1997.

Altunay, E., *1540 (H.947) Tarihli Tahrir Defterine Göre Bitlis Sancağı*, Yüksek Lisans Tezi (Ondukuz Mayıs Üniversitesi), Samsun, 1994.

Aydın, B., "XVI. Yüzyıl Osmanlı Bürokrasisinde Timar Tevcih Sistemi," *Osmanlı Araştırmaları* 24 (2004), pp. 29-35.

Gökbilgin, M. T., "Kanûnî Sultan Süleyman'ın Timar ve Zeamet Tevcihi ile İlgili Fermanları," *Tarih Dergisi* 22 (1967), pp. 35-48.

Göyünç, N., "Timar Tevcihleri Hakkında," *Osmanlı-Türk Diplomatîği Semineri 30-31 Mayıs 1994 Bildiriler*, İstanbul, 1995, pp. 67-74.

Göyünç, N., "Timar Ruznamçe Defterleri'nin Biyografik Kaynak Olarak Önemi," *Bellekten* LX:227 (1996), pp. 127-138.

Howard, D., "The BBA Ruznamçe Tasnifi: A New Resource for the Study of the Ottoman Timar System," *Turkish Studies Association Bulletin* 10:1 (1986), pp. 11-19.

Howard, D., *Timar System and Its Transformation, 1563-1656*, Ph.D Dissertation, Indiana University, 1987.

Howard, D., "Central and Provincial Administrative Interaction in Timar Bestowals in the Early Seventeenth Century," C. E. Farah (ed.), *Decision Making and Change in the Ottoman Empire*, Missouri, 1993,

pp. 81-87.

Howard, D., "The Historical Development of the Ottoman Imperial Registry (Defter-i Hakani):

Mid-Fifteenth to Mid-Seventeenth Centuries," *Archivum Ottomanicum* 11 (1998), pp. 213-220.

İnalçık, H., "Osmanlı Bürokrasisinde Aklâm ve Muâmelât," *Osmanlı Araştırmaları* 1 (1980), pp. 1-14.

Kılıç, O., *730 Numaralı Van, 'Adilcevaz, Muş ve Bitlis Livaları Tımar İcmal Defteri (I. Ahmed Dönemi)*, Yüksek Lisans Tezi (Fırat Üniversitesi), Elazığ, 1989.

Kütükoğlu, M. S., *Osmanlı Belgelerinin Dili (Diplomatik)*, 2nd ed., İstanbul, 1998.

三沢伸生 「「ティマール制」研究の展開」 『西南アジア研究』 64(2006)、pp. 78-93.